

2011年12月15日／浪宏友ビジネス縁起観塾

## 経題 「妙法蓮華経」 の意味

資料：庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』（佼成出版社）（経題・序品）

### 1. 序品の構成

- (1) 無量義の教えを説き終えられた釈迦牟尼世尊が瞑想に入られました。

そのとき、釈迦牟尼世尊の白毫相から光が出て下は阿鼻地獄から上は阿迦尼咤天まで、すなわち全世界を照らし出しました。

白毫相(びやくごうそう)：仏さまの額にある白い渦毛。仏像を見ると眉と眉の間の少し上に小さな点があります。

阿鼻地獄(あびじごく)：無間地獄(むげんじごく)とも言います。一番深い地獄です。

阿迦尼咤天(あかにたてん)：有頂天(うちょうてん)とも言います。もっとも高いところにあります。

- (2) 弥勒菩薩が「釈迦牟尼世尊は何故このような不思議を見せてくださるのだろうか」と思い、文殊師利菩薩にそのわけを尋ねました。

- (3) 文殊師利菩薩は、ずっと昔、日月燈明という仏さまが、同じように瞑想に入られた後「妙法蓮華」の教えを説かれた事例を上げて、釈迦牟尼世尊はこれから妙法蓮華の教えを説いてくださるにちがいないと説明しました。

### 2. 経題

妙法蓮華経の原名は、サンスクリット(梵語)の「**Saddharma-puṇḍarīka-sūtra**(サッドダルマ・プンダリーカ・スートラ)」です。これを、鳩摩羅什(くまらじゅう)が、「妙法蓮華経」と漢訳しました。

鳩摩羅什：350年龜茲国に生まれ、409年長安で没す。幼少より仏教を学び、長じて多くのサンスクリット経典を漢訳する。

原名(梵語)		鳩摩羅什の漢訳
sad	真実の、正しい、善い、優れた	妙法
dharma	法	
puṇḍarīk	白い蓮の花、白蓮華	蓮華
sūtra	通し糸	経

### 3. 「法」の意味

「法」には、だいたい四つの意味があるとされています。概念的にご説明します。

#### (1) 教え

「法」には、「教え」という意味があります。

仏教では、釈迦牟尼世尊が説かれた教えのことですが、一般的には、真理に基づく教えであれば、すべてこの中に入ると思います。

#### (2) 真理

「法」には、「真理」という意味があります。

ものごととものごとの間にある、正しい原因・結果の関係のことです。

ビジネス縁起観では、「原因・条件・結果・影響の原理」を基盤として学んでいます。

#### (3) 善い行い

「法」には、「善い行い」という意味があります。

真の人間として正しく生きることであり、自分と他の人との関係を正しく保つことです。

#### (4) ものごと

「法」には「ものごと」という意味があります。

### 4. 「ものごと」について

「法」の意味としての「ものごと」について、ご説明します。

#### (1) 時間・空間の中であって、私たちが感覚や知覚で経験し認識できる現象としてのものごとです。

感覚＝視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚・平衡感覚・体性感覚・内臓感覚など  
知覚＝感覚で感じたものが何であるか、どのようなものであるかなどを自覚するはたらき

#### (2) 私たちは、自分が経験し認識できるものごとだけを、現実に取り扱うことができます。

#### (3) 科学技術は、さまざまなやりかたで感覚の能力を大きくし、人類が経験し認識できるものごとを増やしました。それによって、人類が取り扱うことのできるものごとが飛躍的に増えました。

### 5. ものごとの特徴

私たちの感覚・知覚で経験し認識できるものごとには、二つの特徴があります。

#### (1) ものごとには、変化するという特徴があります。

#### (2) ものごとには、他のものごとと関係しながら存在しているという特徴があります。

## 6. 「妙法」の意味

### (1) 「妙」の意味

思い量ることができない、絶対で比べるものがない、非常に優れている、われわれの考えを超えている

### (2) 「妙法」

「法」は、言葉に尽くせない意味・内容を持っています。それゆえ鳩摩羅什は「妙」という形容詞をつけて「妙法」としたのだと思います。

## 7. 「蓮華」の意味

(1) 蓮華は、インドでは古来から尊い花として重んぜられてきました。

(2) 仏教では、泥の中にありながら泥に染まらずに美しい花を咲かせる姿が、迷える人々の中に入って、救いのはたらきをする仏陀や菩薩のあり方に譬えられてきました。

## 8. 「経」の意味

梵語の「**sutra**」は通し糸、漢字の「経」はたて糸です。どちらも、「基本線となる大切な内容に貫かれている」ことを、示しています。

## 9. 「妙法蓮華経」の意味

庭野日敬師によると、「妙法蓮華経」には、次の意味があります。

人間が現世に生活しながら

迷いとらわれないうりっぱな生活ができることを説いた

この上もなく尊い教え

(庭野日敬著『法華経の新しい解釈』佼成出版社、68頁)

## 10. 煩悩

### (1) 「煩悩」の意味

煩悩は、煩擾悩乱（はんじょうのうらん）で、悪い（真理から外れた）心のはたらきのことです。

煩擾（はんじょう）： わずらわしくさわがしい。ごたごたと乱れている

悩乱（のうらん）： 思いわずらって心が乱れる

### (2) さまざまな煩悩

西暦4～5世紀のインドの学僧世親が著した『唯識三十頌（ゆいしきさんじゅうじゆ）』には、六つの煩悩と二十の随煩悩が示されています。（別表参照）

実際には、名称もつけられないほど数多くの煩悩がはたらいています。

## 11. 煩悩が生まれる原因

### (1) 煩悩が生まれるおもとの原因は、自分を見誤るところにあると思われます。

よくある見誤りに、次のようなものがあります。

- ・自分の肉体も心のはたらきも変化するのに、変化しないと見る誤り。
- ・自分と他の人々とは生かされ合い、生かし合いの関係にあるのに、自分は人の世話にならずに生きていると見る誤り。
- ・自分と他の人が一緒に幸せになるのが本当の幸せであるのに、自分一人が幸せになればよいと見る誤り。
- ・世の中は真理に従って動いているのに、自分の意のままに動くと思う誤り。
- ・自分の考えること、行うこと、語ることは、すべて正しいと見る誤り。

### (2) こうした見誤りからさらに数多くの見誤りが生まれ、そこから煩悩が生み出され、自分を損ね、人々に迷惑をかけ、社会を乱してしまうのです。

## 12. 煩悩に方向を与える

提婆達多品（庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』124頁）に、「煩悩をどう動かすかで悪と善が分かれる」という一節があります。要点は、次の通りです。

- ① 煩悩はすべての人間が持っています。
- ② 煩悩から完全に離れてしまうことは、普通の生活をしている人には不可能です。
- ③ 煩悩をそのまま行動に移しますと「悪」になります。
- ④ 煩悩に善い方向を与えれば「善」をなすことができます。

【別表】『唯識三十頌』に挙げられている煩惱・随煩惱の簡単な説明

煩惱＝苦しみ、悩みを作る中心的な迷い		
貪	とん	むさぼり執着すること。歪んだ欲望。激しい物欲・愛情欲・権力欲など。
瞋	じん	自分本位に合わないことに対する腹立ち、怒り、憎しみなど。
痴	ち	ものの道理が分からないこと。正しい智慧がはたらかないこと。
慢	まん	自分は他人よりも優れていると妄想すること。人を見下すこと。
疑	ぎ	真理を疑うこと。原因・結果の原理を疑うこと。法則を疑うこと。
悪見	あくけん	真理を誤って考えること。よこしまな見解・思想・主張など。迷信を持つこと。

随煩惱＝煩惱に付随して生じる迷い		
忿	ふん	自分の意に合わない対象に対して怒りの感情を起こすこと。不機嫌なこと。
恨	こん	怒りの対象を、怒りの感情で思い続けること。恨み。
覆	ふく	自分の過ちを覆い隠すこと。自分の作った罪を覆い隠すこと。
悩	のう	他人の指摘や注意を受け入れず、自分の考えに固執して捨てないこと。
嫉	しつ	他人の幸福に対して怒りの感情を生じること。
慳	けん	ものに執着して他人のために使おうとしないこと。ものおしみ。
誑	おう	人徳がないのに敬われようとする。たぶらかすこと。
諂	てん	へつらうこと。ねじけた振る舞いをすること。
害	がい	生き物に危害を加えて喜ぶこと。いじめること。
憍	きょう	自分の財産・才能・学力などに愛着して自ら驕り高ぶること。自己満足。
無慙	むざん	自分自身に対して、罪を罪として恥じないこと。
無愧	むき	他人や社会に対して、罪を罪として恥じないこと。
掉挙	じょうこ	うわついでいて落ち着きがないこと。軽率なこと。
昏沈	こんじん	塞ぎ込んで活気がないこと。気力がないこと。
不信	ふしん	真理を信じないこと。人徳が分からず人間的成長の意味が分からない。
懈怠	けたい	すべきことをしないこと。してはならないことをすること。
放逸	ほういつ	ものごとに真面目に取り組まないこと。ものごとをなおざりにすること。
失念	しつねん	対象をはっきりと記憶しないこと。ぼんやりとして焦点が定まらないこと。
散乱	さんらん	気持ちが乱れて定まらないこと。目の前のものごとに振り回されること。
不正知	ふしょうち	自分のすべきことも分からず、してはならないことも分からないこと。